ティーチング・ポートフォリオ

大学名　人間総合科学大学

所　属　保健医療学部　看護学科

名　前　坂井瑞子

作成日　2025 年 4 月 18 日

１．責務（何を行っているか、何を果たしているか）

＊人間総合科学大学保健医療学部の教育理念は、「人間に対する深淵な教養を基に、自立と共生の精神をもって、保健医療に関する職業や社会の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。」であります。教員は、学生さんが医療にかかわる専門職業人としての知識・技術・態度をはぐくみ、専門職としての実践能力をつけてもらうことが最大の使命と考えます。

【主担当科目】

看護学科で基礎看護学領域に所属し、基礎看護学科目を担当しています。また、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、統合実習を担当しています。今年度からは、大学生入門（主担当）、リハビリテーション看護論（主担当）を担当いたします。

【学年担任】

4 学年ですので、今年度は４学年の学生さん達にとって、就職や国家試験を受験する年度となります。就職活動や国家試験受験は学生さんたちの将来につながることでもありますので、しっかりとサポートしていきたいと思います。そして、4 学年全員が、看護師国家試験・保健師国家試験 100%合格をともに目指したいと思います。

【科目担当】

＊科目担当は以下の通リであります。

１．大学生入門（主担当）
２．看護共通技術Ⅱ
３．看護基礎技術Ⅰ（科目責任者）
４．看護基礎技術Ⅱ
５．看護基礎技術Ⅲ（科目責任者）
６．看護の展開
７．リハビリテーション看護論（科目責任者）
８．基礎看護学実習Ⅰ
９．基礎看護学実習Ⅱ
１０．　統合実習
１１．　看護研究Ⅱ
１２．　領域別専門看護学演習

【委員会・係：】

委員会・係の任務を遂行し、前年度を踏襲するものは踏襲し、改善が必要なものは改善し、より良い方向に改善していきたいと思います。また、委員会の中にある係の責任者としても同じように改善していきたいと考えております。

１．図書館運営委員会
２．実習委員会
３．危機管理衛生委員会

２．理念（教育に対する考え方）

＊教育の結果は 100 年といわれています。その 100 年の 1 場面を共有しているという思いでおりま

す。特に当校は将来医療従事者となる学生さんを育てているので身の引き締まる思いで毎日を過ごしています。教育とは、一方向の関りではなく、学生さんも自分自身もともに学び成長することであると考えております。

３．方法（教育方法において大切にしていること）

＊自分自身が教育方法として大切にしているものは、学生さんとともに学ぶということです。一斉講義の時もなるべく、学生さんの反応や声を聴くようにしています。看護学は、医療の知識が必要です。医療の知識は、一般人の方と医療従事者では大きい差があります。そこで、新入生の皆様には、一般人の方が使用される用語と専門用語の両方を学んで欲しいと思い授業時には気を配っております。学生さんたちが臨地実習を終えたあとは、その臨地での場面を共有したいと常に考えております。学年が上がっていくにつれ、対医療人としての会話を気にかけています。また、学生さんには、対医療人とは専門用語で会話し、患者様とは一般の言葉で会話できるような人材になって欲しいと感じていて講義や演習時に繰り返しています。医療の知識は圧倒的に免許を取得している側が多いです。また自分自身が医療従事者として勤務していた経験と実習生や患者様との体験を講義の中に具体例として挙げ共有したいと常に考えております。

＊近年はICT技術を活用した教育方法が必要といわれています。現在は演習時にICT技術を活用した教育方法として取り組んでおりますが、今後はICT技術を活用した教育方法の研修に参加し、新たな工夫をしていきたいと考えております。

４．成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

１）看護基礎技術Ⅰ（科目責任者）に関して

当該科目は、「日常生活援助に関係する科目」であります。教室で座学の講義をしてから、基礎看護学実習室で技術演習授業を履修していただきます。時間数も60時間と多いので、複数の教員がオムニバス形式で担当しています。また「講義ガイダンスから終講授業までの期間が長期に渡る」ことも要因として考えられます。また、複数の教員によるオムニバス形式なので、必ず事前にうち合わせ会議を開催し共通理解してから、講義や演習（講義）をしております。特に工夫した点では、教員間で共通認識をしたり、担当教員が強調したい点は繰り返し伝えるようにしたり、重要ポイントは穴埋め資料にしたりしています。基礎看護学実習室では、演習前国家試験形式の10問題も実施しております。また演習前国家試験形式を学生が復習できるように工夫しております。また今年度は演習を欠席した学生に、8月上旬に、演習の補講を行い、学生の技術習得に留意いたしました。

講義開始時や初期の内容を忘れているならば、10問題や演習時に復習できる機会を増やす工夫が必要と考えます。また主体的に看護を学べる工夫をしていこうと考えております。

今回の成績や分布の妥当性については、昨年度が初めての担当だったため他の教員とも十分な検討が必要と考えます。また、成績評価分布では当該科目はS評価の学生は少ない傾向があります。しかし、A評価やB評価の学生が75%であることを考えると概ね妥当な試験内容と考えます。

演習（講義）時の手技に関して学生の興味関心が高いので、教員手技手元がよく見えるような工夫を考えております。また学生が主体的に学べる工夫が必要と考えます。とかく受け身になりがちな演習を既習学習想起させ、学生自らが逆転授業にもっていくような機会ももちたいと考えております。今後も検討をしていきたいと思います。 ＊

２）看護基礎技術Ⅲ（科目責任者）

当該科目は「診療の補助業務に関する科目」であります。座学の講義をしてから、実習室で技術演習（授業）を履修していただきます。全体の時間数も 60 時間と多いので、複数の教員が担当し、また「講義ガイダンスから終講授業までの期間が長期に渡る」ことも履修が難しい要因として考えられます。また、複数の教員によるオムニバス形式なので、必ず事前にうち合わせ会議を開催し全教員共通の理解をしてから、講義や演習講義をしております。特に工夫した点では、昨年度の学生意見を取り入れたりしていることです。またこの技術は初学者の学生にとって難易度の高い技術となります。そこで教員の模範デモンストレーションは手元をクローズアップしたらり、「はい、今の先生の手の動きに注目して下さい」と伝えています。そして国家試験形式の問題を演習前に受験してもらい繰り返したり、復習できるように工夫しております。この科目は、将来就職してから必要な基礎科目なので、学生さん達にはぜひ修得していただきたいと考えております。学生さんからのコメントは概ね良い反応が多いように見受けられました。やはり、少人数制で多くの教員の関りがあることの良さが現れているように感じました。今後もこの学生さんの良い反応は活かしていき、学生さんの意見は真摯に向き合っていきたいと考えております。

（１）本科目において、予習・復習など自主学修を行っている学生が他の科目より多いという結果がでました。

（２）学生さんからの反応について

先生によって対応、回答に差があり波がある。また容姿のチェックの際にも厳しい先生とそうでない先生で分かれる。

回答：おそらく演習時のことをイメージされているようですね。教員間では演習内容の事前打ち合わせや演習内容の手合わせを行っております。「演習に入る教員が 100％同じ」という状況は難しいかと思いますが、なるべく「演習に入る教員が 100％同じ」に近づくように改善したいと思います。私見です。原理・原則は統一していますが、学生さんにも個性があるように、教員の個性も演習に反映されてもよいのではと考えております。

容姿チェックは演習ガイダンスと校則に則って行っておりますので、演習に参加する容姿を確認してください。

（３） A クラスと B クラスで生徒たちへの態度が違うときがあります。

回答：態度の違いはないと思いますが、「演習に入る教員が 100％同じ」に近づくように改善したいと思います。

５．目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

＊講義・演習のある科目では、特に演習前の事前学習や事前課題の提示、UHAS（学生支援ポータルサイト）を利用した国家試験形式問題を実施しております。この問題は主に復習内容が多く、中には予習内容も含んでおります。また、講義・演習終了後は、振り返りレポートに記載してもらい、学習内容を確認させてもらいます。学生さんからの質問事項があれば、次回の講義・演習時に回答し、いそぐ必要があると判断した場合は、UHAS（学生支援ポータルサイト）を利用して個別に回答しております。

＊基礎看護学領域の場合、特に演習は積み重ねであるので、技術の習得で積み重ねが難しいと感じた学生さんには声をかけるようにしています。
＊長期的には、臨地実習で学生さんの反応やパフォーマンスができているのか、困っているのかを評価していくことと考えています。

＊　表紙を含め、全体として、3 ～10 ページ程度とします。

【添付資料】
＊　TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、
すぐに確認できるようにしておきます。）